

市政ニュース

「コウノトリが結ぶ環境協力」 JICA草の根技術協力事業・中国研修団来訪

県と市では、コウノトリをシンボルとする環境教育とコウノトリ育む農法を介して、急激に悪化する中国上海都市圏周辺の農村環境の改善に向けた国際貢献事業を平成22年度から行っています。この事業は、NPO法人食と農の研究所(神戸市)を事業実施機関とし、JICAの全面的支援により実施しています。2月27日から28日まで、同事業の対象地域である中国浙江省慈溪市庵東鎮から、6人の研修団が来訪しました。

- 今回の来訪目的は
- ①コウノトリの研究拠点や生息保全の現地を視察し、コウノトリ野生復帰事業の取り組みを知る。
 - ②コウノトリ育む農法の取組みや関係者の考え方を知り、現場を見る。
 - ③本市の環境教育の取組みや考え方を学ぶ。



▲三江小学校での研修

④庵東鎮の小学校での環境教育実施に向け、副読本などの検討を行う。

などで、環境教育班と農業班に分かれて研修しました。環境教育班は三江小学校で研修し、農業班はJICAたじまや農家の視察を行いました。

また、28日午後は、本市の農業関係者も交えてシンポジウムを開催しました。質疑応答も活発で、実践に向けて、実りある研修となりました。

「歴史を今にとどめる地域財産」

旧中和家住宅の無償譲受

大庄屋を務めた旧家である旧中和家住宅(出石町三木)の動産および不動産を市に無償譲渡する申し出を受け、3月2日、所有者の鈴木直子さん(大阪市)から中貝市長へ目録が贈られました。

寄贈を受けたのは、江戸時代に築造された母屋、市指定名勝になっている池泉鑑賞式庭園などの土地・建物です。

また、代々の当主が大切に保管していた所蔵品56点、書

籍133冊もいただきました。この中には、出石藩主からの拝領品といわれているものも含まれています。



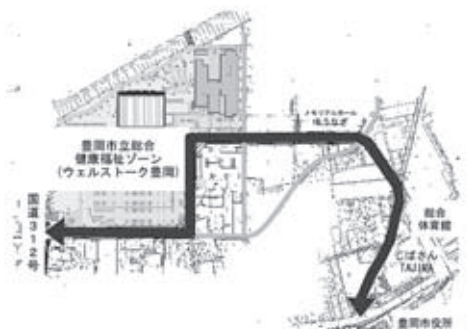
▲目録を贈呈する鈴木直子さん(中央)と鈴木美佐乃さん(左)

「健康・福祉の向上に貢献」

市道「立野大磯線」が全線開通

総合健康ゾーン(ウエルストーク豊岡、市健康福祉部)へのアクセス道路として、平成20年度から整備を進めていた市道「立野大磯線」(他2路線)が全線開通(延長610メートル)し、3月1日午前9時に供用開始しました。

これで、市民会館やじばさん但馬、総合体育館方面からウエルストーク豊岡へのアクセスが大変便利になりました。



▲開通した立野大磯線・周辺図

「主な市政の動き」

【2月】

- 24日・「悪質な訪問販売お断りシール」配布
- 25日・豊岡市運動遊び事業事業効果の検証 研究報告会
- 兵庫県但馬・京都府北部合同企業説明会(神戸市)

【3月】

- 1日・立野大磯線全線開通
- 高齢者見守りネットワーク事業・コープこうべと協定締結
- 第2次豊岡市男女共同参画プラン策定
- 2日・市議会定例会開会(28日)
- 旧中和家住宅の無償譲受
- 5日・豊岡市全域の豪雪災害警戒本部廃止
- 11日・東日本大震災1周年黙とう・半旗掲揚
- 17日・豊岡駅前広場竣工式

「運動好きな子どもは心も育つ」

豊岡市運動遊び事業 事業効果の検証

研究報告会開催

市では、平成19年度から「幼児期における運動遊び事業」を積極的に推進・展開してきます。また、平成22年度からは、3カ年計画で運動遊びに係る事業効果の検証を進めています。

2月25日、同事業の研究報告会を開催し、市内学校園教職員などが参加しました。

当日は、(財)明治安田厚生事業団体力医学研究所研究員の柳澤弘樹さんが、「脳を上手に使えるように！現代っ子の

学力、体力の向上に有効な取り組み」豊岡市運動遊びプロジェクト」と題して、これまでの本市の事業効果の検証報告を行いました。

報告では、注意・集中力を必要とするビーズ通しを行っている際、脳の活動を測定すると、運動遊び前よりも運動遊びを行った後の方が脳の前頭前野の血流が増加し、通したビーズ数も増加したという効果があったことが分かりました。



▲柳澤弘樹さんの報告

さまざまな機関が高齢者をサポート、高齢者見守りネットワーク事業に係る協定を締結

市では、高齢者の虐待や孤立などを防止し、高齢者が住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせる地域づくりを推進するため、地域や社会福祉協議会、生活関連事業者などの協力を得て、平成23年10

月から「高齢者見守りネットワーク事業」を展開しています。

今回新たに「生活協同組合

コープこうべ」に協力をお願いし、3月1日、同組合協同購入センター但馬(養父市)で協定書締結式を行いました。

この協定により、同ネットワーク事業に協力する機関・事業者などは230になり、介護保険事業者のほか、地域活動組織、医療機関、配食事業者、新聞・飲料販売店や金融機関など、多くの協力を得



▲協定を締結したコープこうべ第6地区本部長の尼子忠敬さん(右)と市老年福祉課長

中貝市長の徒然日記 ⑤

雪との闘い

大雪でした。私も雪かきに追われました。歩数計は1回に軽く6千歩を超えました。地域での助け合い、支え合いには、頭が下がりました。

不眠不休で立ち向かってくれている人を見かけたとき、人としてまず掛けるべき言葉は、「ありがとう」や「苦勞様」なのではないか、と。

1月下旬。朝6時過ぎに除雪車がわが家の前を通りかかりました。市が委託している建設業の方でした。運転席に向かつて「ご苦勞様です」と声を掛けると、運転席から驚いたような顔と声が返ってきました。「そんなこと言われたの、初めてだ。いつも文句ばかり言われている」

豊岡から岩手県花巻市！までの距離を、167台の除雪車が朝4時に出動して午前8時まで一通り終えます。降り続けると、再び出動し、圧雪の除去が夜中まで続くこともあります。そしてまた朝4時に出動です。例年の市の除雪費は1〜2億円ですが、今年

ぎよつとしたようなその顔が忘れられません。私は、考え込んでしまいました。確かに、連日の雪でみんなへとへとです。除雪に来るのが遅い。除雪車がどけた雪が玄関の前をふさいでしまふ。がたがたの道は大渋滞だ。仕事にならない。腹が立つ。

ある日、市役所に1通の手紙が届きました。千円札が1枚、同封されていました。「今年は雪が大変でしょう。せめてもの気持ちです」